

# 今さら聞けないピロリの話

## 南多摩病院公開講座より

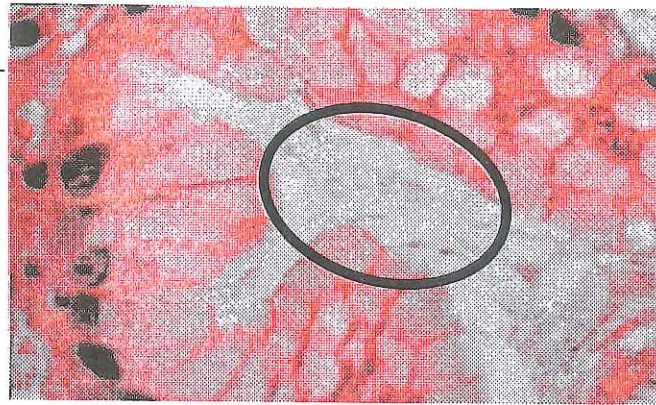
南多摩病院では定期的に一般市民向けの公開講座が開催されています。8月19日(土)のテーマは「ピロリ菌」。興味深い内容でしたので、要約してお知らせすることにしました。

### ピロリ菌にも色々

「ピロリ菌は胃潰瘍や胃がんの原因となる」ということとくらは知っていましたが、ピロリ菌にも色々な種類があることは初耳でした。日本に多いのは、毒性の強い東アジア型。



南多摩病院 消化器内科 好川謙一先生

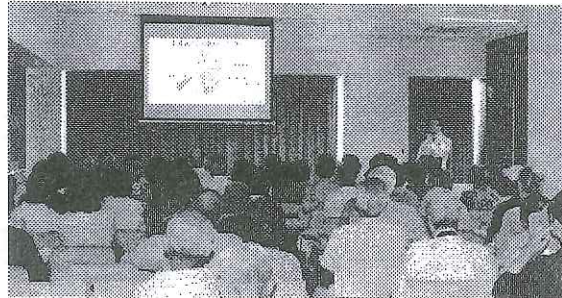


ヘリコバクターピロリ (○の中に見られる)

日本人に胃がんが多いのはこのためだとも言われています。一方、欧米型は毒性が弱く、沖縄県ではこの型が多く、胃がんの発症率が少ないとの事。

### 感染者は減少

では、ピロリ菌とはどういうものか? 正式名は、ヘリコバクターピロリ。ヘリコはらせん形、バクターはバクテリア、ピロリは胃の出口の部位の名前。つまり、



公開講座の様子 (熱心に聞き入る参加者)

胃の出口付近に生息しているらせん形をした細菌です。

現在、50代以降になると全体の7割、8割が感染していると言われていますが、若い人ほど感染率は低く、今後も減少していくと考えられています。(ピロリ菌は口から体内に入って感染するものとはいえ、簡単にうつるようなものではありません。正確な原因は不明ですが、井戸水が原因ではないかと考えられています)

胃には強い酸(胃酸)があるため、昔から細菌はいないと考えられていました。が、その発見以来、さまざまな研究から、ピロリ菌が胃炎や胃潰瘍などの胃の病気に深く関わっていることが明らかにされました。

ピロリ菌が胃の中で生きていける秘密はピロリ菌がだしている「ウレアーゼ」という酵素にあります。この酵素は胃の中の尿素を分解して

アンモニアを作りだします。アンモニアはアルカリ性なので、ピロリ菌のまわりの胃酸が中和され、生息できるのです。この事は、検査方法に利用されています。

### 除菌は予防

「胃がんの原因の99%はピロリ菌が関係している」と言われていますが、だからといって「ピロリ菌を除菌すると胃がんにはならない」とは限りません。それは、それまでに受けたダメージが原因になり胃がんになる事があるからです。

とはいえ、除菌は胃がんの予防の大きな要因であることは間違いありません。

講演の中で、ピロリ菌に感染した胃の粘膜とそうでない粘膜の画像を見せてもらいましたが、明らかに違います。感染した胃は、炎症を起こし、色も大変不健康な印象でした。

(裏面に続く)

胃の調子の悪い方は、是非、バリウムや内視鏡の検査と共にピロリ菌の検査を受け、胃がんなどのリスクを減らしましょう。

### 検査方法

検査の方法は6種類です。

■内視鏡検査を伴う方法

①培養法

②迅速ウレアーゼ

③組織鏡検査

■内視鏡検査を伴わない方法

④尿素呼気試験

(前述のウレアーゼが、尿素をアンモニアと二酸化炭素に分解する原理を利用)

⑤血清ピロリ抗体測定

⑥糞便中抗原測定

このうち、②④⑤が、現在よく用いられているそうです。

### 除菌は長丁場も

2013年から、ピロリ感染性胃炎患者の治療も保険適用となりました。(ピロリ菌検査のみは、保険適用外です)

除菌は、7日間薬を飲むという方法で行いますが、除菌できない場合は、薬の配合を変え再度除菌

を行います。

薬による副作用などによって除菌できない場合もあります。

また、バリウムや内視鏡検査によって、胃がんなどの病気が見つかった場合はそちらの治療を優先します。

### アニサキスの話

講演の中で、気になった話をひとつ。

強い胃酸の中で、生息できる菌がもう一つあります。アニサキスです。

サバなどの青魚の内臓にいますが、魚の鮮度が落ちた場合は筋肉にも移動し、体内に入ると激しい痛みを起すことがあります。内視鏡を使い、胃の粘膜に噛みついてるアニサキスを除去する様子を見せてもらい、「これは気を付けよう」と強く思いました。加熱又はきつちりとした冷凍処理により死滅するようですが、肉眼でも見えるとはいえ、完全に取り除けるとは限ら

ないので、生食や内臓を食べる場合は充分な注意が必要です。

\* 次回の公開講座は「頭痛について」です。(左記参照)

第22回 南多摩病院公開講座

11月18日 (土) 午後2時~4時

「放っておくと大変なことに!

頭痛の話」(田中先生)

「頭痛がおきたら MRI?CT?」

11/16締切、先着100名、無料

申込・問合せ 042-663-0111医療連携室